令和７年度　第８号　（通刊１７１号）

発行　令和８年３月３日
(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイ、ミネフジツボの篭等への付着が増加することが考えられます

１　２月中～下旬のラーバ出現状況

付着生物ラーバ調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2～5のとおりです。

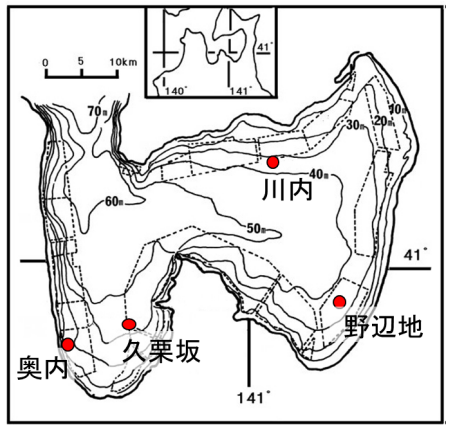

図1　付着生物ラーバ調査地点

（１）ユウレイボヤラーバ

全調査地点で出現が見られませんでした(表1、図2)。

（２）ムラサキイガイラーバ

奥内で86.7～219.2個/m³、久栗坂で43.3～59.4個体/m³、野辺地で14.8～30.5個/m³、川内で32.8個/m³見られました(表1、図3)。

（３）キヌマトイガイラーバ

奥内で10.8～33.3個/m³、久栗坂で17.8～126.7個/m³、野辺地で40.6～55.5個/m³、川内で171.9個/m³見られました（表1、図4）。

（４）ミネフジツボラーバ

奥内1.7個/m³、久栗坂で1.1～1.7個/m³、野辺地で0.8～2.3個/m³、川内で3.1個/m³見られました（表1、図5）。

２　今後の見込み

（１）ユウレイボヤ

10月以降の累積ラーバ出現数は、奥内で4.0個体/m³、久栗坂で4.7個体/m³、野辺地で7.9個体/m³、川内で0.0個体/m³です。**付着数が多くなる目安である5.0個体/m³を上回る海域では、出荷時期に大量付着し作業効率が低下する可能性**があります。

また、陸奥湾の中層水温は西湾で6～8℃台、東湾で4～5℃台となっています。現在はユウレイボヤが産卵する8℃以上の水温となっている海域が少なく、ラーバの出現も見られていませんが、今後、水温の上昇に伴い、ラーバが出現する可能性があります。

（２）ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、**秋から冬生まれのラーバの養殖篭への付着は少ない**ことが分かっています。

（３）キヌマトイガイ・ミネフジツボ

ラーバの出現が継続していることから、今後、篭等への付着が増加することが考えられます。

表1　令和8年２月中～下旬のラーバ出現数　　単位：個体/m³

調査地点	調査月日	ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	ﾐﾈﾌｼﾞﾂﾎﾞ
奥内沖	2月17日	0.0	219.2	33.3	1.7
	2月24日	0.0	86.7	10.8	0.0
久栗坂沖	2月17日	0.0	59.4	126.7	1.7
	2月25日	0.0	43.3	17.8	1.1
野辺地沖	2月17日	0.0	30.5	40.6	2.3
	2月22日	0.0	14.8	55.5	0.8
川内沖	2月17日	0.0	32.8	171.9	3.1

発行元：地方独立行政法人
青森県産業技術センター　水産総合研究所
住　所：青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10
TEL：017-755-2155　FAX：017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL：https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/
海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード